

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童デイサービスあそぼう		公表日		令和8年 3月 31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	活動の内容によってスペース使い分けています(室内や室外に分けて活動を行う)	気分の切り替えや痲痺があった際、1人になるスペースをもう少し工夫してみる	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	児童の活動状況によって職員を分けて支援している。	天候や利用人数やその他理由により活動を変更する際は、十分に児童と話し合っ(気持ちの切替の難しい児童がいるため) 決めるようにする	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	5	危険回避が苦手な児童には声掛けをして、段差がある場所は十分確認して移動するよう促す	現在、玄関やトイレに段差はあるが意識をしてほしいのでそのままにしている。今後、身体に障がいがある児童を受け入れる時は段差を工夫していきたい	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	活動スペースは常に換気をして、何をするか? 毎回児童と職員で相談しながら活動を行っている	感染が流行る時期は特に清潔にするよう心掛ける	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	2	相談室を活用しながら児童の状況によって環境を工夫している	利用人数によって個別のスペースが確保できない場合があるので、児童が多い時は職員で十分に話し合っ環境作りの工夫を行う	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	0	児童それぞれの支援目標を決めて、その目標の達成にむけて日々支援を行っている	目標設定は児童それぞれの個別支援計画書に基づいて、支援方法がワンパターンにならないよう工夫する	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	毎年、自己評価表を活用しながら業務改善を行うようにしている	自己評価表での改善策は常に話し合える環境を作るようにし、必要に応じて方法を変えながら支援していく	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	毎月のミーティング等を行い、意見を言える機会を設けている	普段でも職員が意見を言える環境を作れるよう、日頃からコミュニケーションをとるよう心掛ける	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	5	福祉の関係者以外の意見を取り入れて、考えが偏らないように工夫している	専門家等の評価は行ったことがないので、今後そういった評価をお願いしてみたい(ズーム等での評価があれば)	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1	研修の情報があつた場合は職員に共有している。また、研修を行う環境を確保するよう工夫している	事業所内での研修はまだ不十分などところがあるので、短い時間でも行える研修を今後考えていきたい	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	支援プログラムはホームページに公表している。計画書もそれぞれの児童によってプログラムを変えている	支援プログラムの内容に変更が出た時は、十分に職員で話し合い、保護者に報告するようにする	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	支援のニーズは定期的な担当者会議での内容や日頃の児童や保護者の要望や課題に沿って作成している	計画は常に確認をして、必要に応じて見直しを行うようにする	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1	作成のあたつては意見が偏らないよう、職員みんなで話し合っ行うようにしている	作成によって時間があまり取れない理由により、共通理解が少ない時があるので、時間の工夫を日頃から行うよう心掛ける	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1	児童それぞれの課題を職員みんなで確認して、それぞれの特性や性格を考慮して支援を行うようにしている	計画の目標を決めてもなかなか達成までいかない時は、達成の目標を下げて支援方法を変えてみる	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	支援方法はその時の状況によってどういった支援が適切か? 確認(話し合っ)して活動を行っている	確認しても児童の状況により適切な支援が出来ない時があるので、その時は保護者や関係機関等に相談して助言を求めるようにする	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	児童それぞれの支援目標に沿って、何を優先に支援をおこなえばいいか? 職員で話し合っ行うよう心掛けている	支援の設定が職員それぞれがずれないように、活動前や活動後に話し合うようにする	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	職員みんなで常に話し合うよう心掛けている	職員みんなでの話し合いが不十分の場合がある時はSNS等を活用しながら行えるよう工夫する	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	1	職員みんなで常に話し合い、児童や保護者に要望や意見等を聞くようにしている	保護者に関しては忙しくてなかなかコミュニケーションが取れないことがあるので、SNSを活用しながら助言を求め、支援を工夫する	